

女子中学生のグループワークを用いたキャリア教育に関する一考察

—コラージュとキャリアマトリックスを用いて—

伊藤 嘉奈子（子ども心理学科・准教授）・工藤 吉猛（鎌倉女子大学中・高等部・教諭）

Study of the Effects of Group Work on Career Education for Junior High School Girls: Employing Collages and Career Matrix in Career Education

Kanakano Ito and Yoshitake Kudo

Abstract

The purpose of this study is to investigate the effects of employing collages and a career matrix in career education for third graders in a junior high school. First, the teacher asked students to use a career matrix. Next, the students were divided into several groups and asked to make a collage about a job and then to talk about various jobs based on the collages. The Career Maturity Attitude Scale questionnaire was implemented before and after the learning process. The results show that the students' awareness of the importance of a career choice changed positively after the lesson.

Key words : career education, collage, career matrix, Career Maturity Attitude Scale

キーワード：キャリア教育、コラージュ、キャリアマトリックス、進路成熟態度尺度

1. 問題と目的

文部科学省（2009）によれば、平成21年3月に中学校を卒業した生徒のうち、97.9%に当たる約116万3千人が高等学校に進学している。このような状況で高等学校への進学理由として「家族がすすめたから」が30.4%、「みんなが行くから」が27.4%であり（内閣府政策統括，2009）、主体的に進路決定できていない生徒が6割近くいることが分かる。また石嶋・橘川（2003）によると、「親や保護者が高校へ進学するようにいうから」や、

「みんなが行くから」という外圧的、他律的動機を高等学校の進学理由にあげる割合は、中学1年生より、中学2、3年生の方が有意に高いと述べており、現実的に高等学校進学について考える高学年の方が外的要因で、高等学校進学を決めたいと思っていることが分かる。更に石嶋ら（2003）は、外的圧力で他律的に高等学校進学が動機付けられている生徒ほど、進学先の選択や決定に対する関心が低く、計画的に志望校の選択・実現が行われにくいということも指摘している。一方で、

高等学校に進学することの重要性や必要性を認識し、自律的に進学が動機付けられている生徒は、志望校の選択・決定に対する関心が高く、志望校の選択やその実現に向けて自律的、計画的に取り組む傾向にあることも示されている。

また、国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2003)は自立的進路発達課題が高等学校段階の課題であるとしており、中学校段階における自立的進路発達の難しさを指摘している。研究該当校のような中学校と高等学校で一貫的な教育を行っている場合、生徒は高等学校受験を経験しないため、自らの意思と責任で進路を決定する能力・態度を高等学校受験以外の方法で身に付ける必要があると筆者らは考える。

これらを踏まえ、筆者らは、中学校段階のキャリア教育の充実について実践研究を継続している。伊藤・工藤(2010)は、中学1年生を対象に、キャリア教育を実施し、職業知識や職業に対する意識の向上が見られるかどうか検討した。対象が中学1年というキャリア教育をはじめて受ける者であったため、単に職業調べをする授業を展開するのではなく、事前学習として職業に関する切り抜きの収集を求め、それを使ってコラージュを作り、できた作品を媒介として他者の前で発表を行い、自己理解・他者理解を深めることに主眼を置き、授業を展開した。その結果、授業の前後における職業的進路成熟態度に有意な差は認められなかったものの、将来の進路への関心が高まったことが明らかとなった。しかし、坂柳・竹内(1986)や伊藤ら(2010)のとおり、職業的進路成熟態度は一度の授業で変化が見られるようなものではなく、長期に渡り授業を実施することで向上が期待できると考えられる。よって、中学3年間を通して、キャリア教育の充実を図る授業を展開し、その教育的効果を検討する必要があるといえよう。

そこで、本研究では縦断研究として、前述の伊藤ら(2010)と同一の調査対象者に、2年後の中学3年生になった段階で、1年後に文理選択を控えていることを念頭に置き、単元「将来設計能力・人間関係形成能力・情報活用能力の3能力の向上」を扱うキャリア教育の授業(Table1)において、

教育現場で美術の技法として親しまれているコラージュをグループワークとして導入し、本研究におけるキャリアガイダンスの単元目標である「職業知識の向上と職業に対する意識の向上と、現在の学びや進路(文理)選択と将来の職業の関連付け」ができるようにキャリアガイダンスを行い、その効果を坂柳ら(1986)の進路成熟態度尺度を用いて検討することを目的とした。

なお、キャリア教育の授業では、自己理解、および、他者理解が重要であるため、それらを促進させるために、授業においてグループワークを取り入れることにした。伊藤ら(2010)においても、グループワークを取り入れたが、本研究では、調査対象者は中学3年生であり、前述のとおり1年次から毎年、グループワークを導入したキャリア教育を体験しており、他者理解が深まっていることが伺える学年である。そのため、よりグループでの交流、および、相互理解を深め、その上で、さらに自己理解を鮮明なものにするという意図で、コラージュの作成については、中学1年の時に各自が個人で作成したが(伊藤ら、2010)、本研究では、協同制作によるコラージュ作成とし、そしてグループ内で発表をするというワークにした。コラージュを導入した理由は、自己の考えの言語化を苦手とする生徒が増えている近年の状況を鑑み、コラージュを作成することで、職業に対するイメージが把握しやすくなるとともに、コラージュ作品を媒介とすることで職業に対する説明をスムーズにすることができ、また一方で、友人の職業に対する説明を理解しやすい状況を作ることが可能となるのではないかと考えたためである。また、協同コラージュは、絵の得手不得手に関わらず行うことができるので、出来上がった作品に関して否定的な意見をグループのメンバーからももらうことも稀である。また、グループで1枚の用紙に作品を作るため、協調性やコミュニケーション能力を利用しながら作業を行うことになり、グループのメンバーが互いに認められているという体験をし、自己肯定感が高まることが期待される。この状態でグループワークを行うことで、単元目標の達成を促したいと考えた。

II. 方法

1. 授業実施の計画

授業実施前に事前学習を行い、その後、総合的学習の一環として「キャリアガイダンス」の時間に一斉授業を実施した。いずれも、進路指導担当の男性教諭が実施した。

教育的効果を測定するために、授業前日と授業終了直後に、後述する進路成熟態度尺度による質問紙を実施した。

2. 実施時期

2009年7月に事前学習、2009年11月にキャリアガイダンスの一斉授業を実施した。

3. 対象者

神奈川県内の私立女子中学3年生54名。

4. 事前学習の内容

授業の説明及び課題を出した。具体的には、①秋に、キャリアガイダンスを実施すること、②労働政策研究・研修機構が開発したキャリアマトリックスを利用し、自分にとって適性の高い職業を探したり、現在検討中の職業との適性を調べたりして、職業というものを身近で現実的な選択であると理解して欲しいこと、③適職検索ナビで検索された職業や自分に興味がある仕事の内容や職業のうち、授業内のグループワークで説明する職業を1つまたは複数決めて、その内容がわかる絵や写真の切り抜きを、新聞や広告、雑誌などから10枚程度準備しておいて欲しいこと、④切り抜きの大きさは10センチ四方程度が良いこと、である。課題は、夏休み期間を使って誰もが無理なく取り組めるように工夫した。また、1つの職業に限定せず、興味ある複数の職業に関する切り抜きを探しても良いことも伝えた。

その後、後述する進路成熟態度尺度による質問紙を実施した。

5. 授業の内容

授業の導入時には、グループでの協同作業として、A3用紙に一つのコラージュを作成すること

と、グループワークを円滑に行うことができるよう補足説明をした。特に、切り抜きを貼る際の留意点として①用紙の自由な場所に貼ってよいこと、②友人が貼った所に重なってもよいこと、③ペンなどで描き足してもよいこと、④3人で作品のタイトルを考えること、の4点を伝え、質問を受けた。

その後、10分間でグループのメンバー3人で協同コラージュを作成し、グループ毎に作成後の感想を互いに述べ合うよう指示した。感想は、自分が感じたことを他のメンバーが不快になることなく述べるよう、デモンストレーションを示し注意した。

次に、コラージュ作品に貼られている切り抜きの職業の中から各自1つを選んで、その職業について順番に発表し、3人が発表し終わった段階で、発表を通して感じたこと、思ったことをシェアリングするよう指示した。こうして、自己受容感、他者受容感を体験し、職業に対する意識の向上や現在の学びや進路（文理）選択と将来の職業の関連付けを自己肯定的な状況で促した。

最後に、実施したキャリアガイダンスの主旨を再度確認し、今回の授業をきっかけとして自宅で文理選択や進路選択に関する話をするように促した。その後、後述する進路成熟態度尺度による質問紙と協同コラージュに関する質問紙を実施した。

6. 質問紙

(1) 進路成熟態度

キャリアガイダンス前後の進路成熟態度尺度を検討するために、伊藤ら（2010）と同様に、坂柳ら（1986）の進路成熟態度尺度を用いた質問紙を作成した。この尺度は、「教育的進路成熟」と「職業的進路成熟」の2側面と、さらに「進路自律度」「進路計画度」「進路関心度」の3つの下位尺度を組み合わせた30項目で構成されているが、本研究では研究目的上、職業に取り組む態度に関する質問からなる「職業的進路成熟」の15項目からなる質問紙を作成した。回答は（ア）（イ）（ウ）の選択肢から一つを選ぶ3件法で求められ、（ア）0点、（イ）1点、（ウ）2点で得点化した。なお、

Table 1. 学習指導案「キャリアマトリックスを用いた職業調べとコラージュ
・SGEを用いたキャリアガイダンス」

- 【対象者】 中学3年生54名
 【単元名】 将来設計能力・人間関係形成能力・情報活用能力（キャリア発達の4大能力の3つ）
 【単元観】 文部科学省によって提示されたキャリア発達に関わる4つの能力の育成が、進路指導・キャリア教育の中心となる。上記3能力を、コラージュと構成的グループエンカウンターを用いたキャリアガイダンスとして向上させていく単元である。
 【単元目標】 職業知識の向上と職業に対する意識の向上、および、現在の学びや進路（文理）選択と将来の職業の関連付け

【本時の展開】

時間	指導内容	指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 今回のキャリアガイダンスの趣旨と作業内容を説明する。 グループ分けは事前に担任を通じて連絡 	<ul style="list-style-type: none"> 調べた職業の単なる説明だけでなく、調べていたときに感じたことや考えたことなども含めて話をするように伝える。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> グループ毎に1枚の画用紙（A3版）を配布して、持参した切抜きを配布した用紙に貼り付けて、3人で協力して1つの作品を完成させる。 (約10分) 出来上がった作品について、3人で感想を述べ合う。 (一人1分×3人：約5分) グループ内で各自、自分が調べてきた職業の中から1つを選んで発表する。 (一人3分×3人：約10分) 同じグループの他の2人の発表について感じたこと、思ったことを発表する。 (一人2分×3人：約6～8分) 今日のキャリアガイダンスを通じて感じたこと、思ったことをグループ内で自由に話してもらう。 (約3分) 	<ul style="list-style-type: none"> 切抜きを貼る際の留意点として <ol style="list-style-type: none"> ① 自由な場所に貼ってよい ② 友人が貼った所に重なってもよい ③ ペンなどで描き足してもよい ④ 3人で作品のタイトルを考えるの4点を伝える。 人の発表を聞くときには、顔を見ながら話を聞くことを確認する。 人の発表について、発表した生徒が安心できる感想や意見を述べるように注意する。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 本日のキャリアガイダンスの趣旨を再度確認し、将来設計と進路選択の関連性や重要性を話す。 事後の進路育成態度尺度アンケートを実施する。 今日のキャリアガイダンスで感じたこと、思ったことなどを書く用紙を配布し、自宅で記入し、担任に提出するよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 本日のキャリアガイダンスの内容をきっかけとして、将来設計が目前の進路選択に大きく関係してくることを認識させ、より具体的な進路研究のきっかけとするよう促す。

項目番号2、4、6、8、10、11、12、13は、逆転項目であり、(ア)2点、(イ)1点、(ウ)0点で得点化した。

(2) 協同コラージュの感想

協同コラージュ作成が、その後のグループワークを円滑なものにできたかを検討するために、協同コラージュに関する質問紙を独自に作成した。質問項目は「コラージュ作品を協力して作成し、職業の説明をしやすくなったり、説明を聞きやすくなったり、感想を話しやすくなったりしたか」であり、回答は5段階評定で「とてもならなかった」から「とてもなった」までを1～5点で得点化した。さらに、「コラージュ作品を協力して作って感じたこと」を自由記述にて求めた。

III. 結果

授業の事前と事後における職業的進路成熟態度尺度得点の差を検討するために、対応のある2標本に対する両側 t 検定を行った。まず、尺度得点合計と3つの下位尺度の結果 (Table2) について述べ、次いで、各項目の結果 (Table3) について述べる。

1. 尺度得点合計について

「尺度得点合計」は、事前より事後の方が有意に高かった ($t(54)=3.96, p<.01$)。すなわち、キャリアガイダンスの授業を体験することで、職業的進路成熟態度が高まったことが明らかになった。

2. 各下位尺度について

「職業的進路計画度」は、事前より事後の方が有意に高かった ($t(54)=2.84, p<.01$)。すなわち、授業後の方が次年度の高等学校入学に向けての準備など進路に関する計画性が高まったことが明らかになった。「職業的進路関心度」は、事前より事後の方が有意に高かった ($t(54)=2.82, p<.01$)。すなわち、授業後の方が将来の職業や、自分にとっての職業選択など進路に対する関心が高まったことが明らかになった。

「職業的進路自立度」については、授業実施前後で有意な差は見られなかった。すなわち、進路

への取り組み姿勢の主体性については変化が見られなかった。

3. 各項目について

15項目の内、有意差の見られた項目を見ていく。

(1) 職業の選択・決定力 (第1項目)

事前より事後の方が有意に高かった ($t(54)=2.06, p<.05$)。すなわち、授業後の方が、職業の選択や決定については自ら進んで行うものだと感じたことが明らかとなった。

(2) 将来の職業や就職への関心 (第3項目)

事前より事後の方が有意に高かった ($t(54)=2.13, p<.05$)。すなわち、授業後の方が、将来の職業や就職について気になると感じたことが明らかとなった。

(3) 職業や産業の種類への関心 (第6項目)

事前より事後の方が有意に高かった ($t(54)=3.11, p<.01$)。すなわち、授業後、どのような種類の職業や産業があるのかについて関心が高まったことが明らかとなった。

(4) 将来の就職先の見通し (第11項目)

事前より事後の方が有意に高かった ($t(54)=2.63, p<.05$)。すなわち、授業後、自分が将来どのような職業に就くかについて関心が高まったことが明らかとなった。

(5) 就職先への就職方法の見通し (第14項目)

事前より事後の方が有意に高かった ($t(54)=2.84, p<.01$)。すなわち、授業後、志望就職先への道筋の重要性を認識したことが明らかになった。

4. 協同コラージュについて

協同コラージュ作品に関する質問の結果をTable4に示す。「コラージュ作品を協力して作成し、職業の説明をしやすくなったり、説明を聞きやすくなったり、感想を話しやすくなったりしたか」の質問に対し、「ややなった」が37.0%、「とてもなった」が33.3%で、この2つで7割を占めた。また、「とてもならなかった」と「あまりならなかった」は回答がなく、「どちらともいえない」が残る29.6%であった。このことから、コラージュ作品を媒介とすることで説明がスムーズにな

Table 2. 事前一事後での職業的進路成熟態度尺度得点合計と下位尺度得点の変化

	N = 54				
	事前		事後		t
	M	SD	M	SD	
尺度得点合計	17.6	4.84	19.0	5.11	3.96**
職業的進路自立度	6.09	1.74	6.41	2.12	1.64
職業的進路計画度	4.78	2.31	5.19	2.43	2.83**
職業的進路関心度	6.91	2.09	7.39	1.92	2.82**

** p < .01

Table 3. 事前一事後での職業的進路成熟態度尺度の各項目得点の変化

	N = 54				
	事前		事後		t
	M	SD	M	SD	
進路自立度第1項目 (職業の選択・決定力)	1.43	0.54	1.57	0.54	2.06*
第4項目 (将来の職業や就職先の決定方法)	1.35	0.56	1.37	0.62	0.22
第7項目 (志望職業の特徴調査方法)	1.20	0.49	1.24	0.51	0.22
第10項目 (就職先決定方法)	1.09	0.56	1.22	0.60	1.73
第13項目 (就職後の親・教師への依存度)	1.02	0.46	1.00	0.55	0.26
進路計画度第2項目 (志望職業への就職方法)	1.39	0.60	1.41	0.69	0.26
第5項目 (志望職業の変容可能性)	1.13	0.75	1.07	0.70	1.137
第8項目 (志望職業決定度)	0.63	0.71	1.69	0.54	1.00
第11項目 (将来の就職先の見通し)	0.81	0.59	1.00	0.61	2.63*
第14項目 (就職先への就職方法の見通し)	0.81	0.68	1.02	0.69	2.84**
進路関心度第3項目 (将来の職業や就職への関心)	1.31	0.64	1.48	0.50	2.13*
第6項目 (職業や産業の種類への関心)	1.17	0.61	1.35	0.59	3.11**
第9項目 (就職に対する意義)	1.15	0.66	1.26	0.56	1.77
第12項目 (自分にとっての職業選択)	1.72	0.49	1.70	0.50	0.38
第15項目 (自分を生かせる職業への関心)	1.56	0.50	1.59	0.50	0.57

** p < .01 * p < .05

Table 4. コラージュ作品を協力して作成して話をしやすくなったか

項目	N = 54	
	人数	割合 (%)
1. まったく思わない	0	0.0
2. あまり思わない	0	0.0
3. どちらともいえない	16	29.6
4. ややそう思う	20	37.0
5. とてもそう思う	18	33.3

り、自己開示しやすい状況が作られ、自己理解・他者理解を深められたと思われる。

コラージュ作品を協力して作って感じたことの自由記述では、「発表した後、周りの人が誉めてくれた時は、とても嬉しく、まだしっかりとその夢は決まっているわけではないのに自信が持てた」、「自分がやりたい職の良い点がたくさんあることに気づいた」、「自分の将来が少し見えた気がした」、「自分は自分に合っている仕事を選べていて、他の人はその人に合っている仕事を選べていると思った」など、自己肯定感が高まり、グループワークを円滑に行うことができるようになったと感じたことが推測できる。

その他の自由記述では、「3人で一緒に楽しく作品を作れたので良かった」というようなグループワーク体験が楽しかったという記述が非常に多かった。さらに、「3人で協力・役割分担しながら楽しく出来た」、「友達との仲が深まったと思う」、「協力してできると達成感があるんだと思った」、「みんなで協力して作るとアイデアもたくさん出て、自分では思いつかないようなものになった」など、一人ではなし得ないような達成感などを味わったという記述が多かった。さらに、「3人のそれぞれの意見や考え方は違って、面白いなと思った」など、自己・他者理解を深めたという記述も見られた。その他、「普段はあまり見れない職業も写真で見れて良かった」、「それぞれの個性が作品に出ていて良いと思った」など、コラージュ作品による表現が職業理解を深めたり、コラージュという非言語的表現により、個性がより際立ち、自己・他者理解が深まったのではないかと思われる記述が多く見られた。

IV. 考察

まず、授業実施前後で、職業的進路成熟態度に有意な高まりが見られた。坂柳ら(1986)の研究では、女子中学生の職業的進路成熟態度の総合得点の平均値は14.78であり、一方女子高校生の平均は17.19であり、有意に高い結果が見られた($t(249)=5.81, p<.001$)。そして、職業的進路成熟態度は、中学校段階から高等学校段階へと顕著な

伸びが見られ、発達の側面が反映していると述べている。本研究では、事前の平均値が17.6、事後の平均値が19.0で有意差が見られた。中学3年生への授業では、キャリアマトリックスを導入し、夏休み中から継続的に進路に関する情報に触れるようにしたり、中学1年次からキャリア教育を行っていたので、自分の将来を考える意識付けが授業によって強化され、職業的進路成熟態度得点を高める方向に影響した事も考えられよう。

下位尺度を見ると、1つ目は職業的進路計画度が高まったことが明らかとなり、さらに各項目を詳細に見ていくと、授業後に将来の就職先の見通しに関する意識、就職先への就職方法の見通しに関する意識が高まったことが明らかとなった。よって、本研究の目的であり、本授業の単元目標の1つとした「現在の学びや進路(文理)選択と将来の職業の関連付け」が強まったと考えられる。

また、職業的進路関心度は高まったことが明らかとなり、さらに、各項目を細かく見ていくと、授業後に、将来の職業や就職に対する関心、職業や産業の種類への関心が高まったことが明らかとなった。よって、こちらも本研究の目的であり、授業の単元目標の1つである「職業知識の向上と職業に対する意識の向上」が強まったと考えられる。

本研究の調査対象者に対してキャリアガイダンスを実施するのは3年目であるが、国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2003)が示す、中学生としての進路発達課題に取り組む姿勢が表れているとも考えられよう。

国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2003)では中学校段階の進路発達課題として、生き方や進路に関する現実的な探索を積極的に行うことができるようになること、そのため、肯定的な自己理解や自己有用感を獲得し、興味・関心や職業に関する基礎的な知識・理解等に基づく選択基準を形成すること、暫定的な進路計画を立案したり、主体的によりよい選択をしようとしたりする姿勢を身に付けることがあげられる、と述べている。本研究で明らかにされた「職業的進路計画度」の高まりは、今回のキャリアガイダンスが

暫定的な進路計画を立案したりする態度を高めたということが出来る。また、「職業的進路関心度」の高まりは、興味・関心や職業に関する基礎的な知識・理解等に基づく選択基準を形成する準備ができていたことを明らかにしたといえる。

「職業的進路自立度」については、伊藤ら(2010)においてもキャリアガイダンスの事前と事後で有意な変化は認められなかった。国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2003)は高等学校段階の進路発達課題を、自分なりの選択基準となる人生観や職業観・勤労観等を身に付けること等としており、職業的進路的自立は高等学校段階での進路発達課題であることが分かる。すなわち、中学校段階で「職業的進路自立度」の向上は発達段階的に難しいことを示している。ただし、本研究では「職業的進路自立度」の下位項目、職業の選択・決定(第1項目)について事前より事後の方が有意に高かった($t(54)=2.06, p<.05$)ので、中学3年生となれば職業的進路自立という発達課題を認識し、その課題に挑戦している生徒もいることも予想できる。

筆者らも、実際に生徒に接していて、中学生の段階で、将来の進路を考えるというのは大変難しいことであると感じる。よって、中学生では、まずは直前に迫った検討課題である、高等学校進学についてどうするか、ということと、その先の将来の生き方を意識付けさせることが重要な時期であり、そのような検討を本研究の授業のような学校教育の中で実施することに意義があることが示唆されたと言えよう。

さらに、協同コラージュに関する質問紙からは、授業にグループワークを取り入れたことに対して、生徒の評価は高く、自由記述からは、グループワークの体験によって、様々な知見を得ることができ、かつ、一人では体験できない達成感などを味わい、充実した授業になったと各自が感じていることが伺えた。よって、グループワークがこの授業に効果的に働いたのではないかと考えられた。

V. 今後の課題

今回の研究は縦断的な研究であり、中学1年生

の段階と中学3年生の段階での比較において、「職業的進路関心度」に有意な高まりが認められた。中学3年生では、事前学習にキャリアマトリックスの利用を導入しており、事前学習を始めた7月からキャリアガイダンスを行った11月下旬までの間、キャリアマトリックスを利用して、各自の職業適性調べなどを数回に渡って行うよう求めた。このことから、キャリアマトリックスの利用は、生徒の「職業的進路関心度」を高める複数の要因の1つであると推測することができるが、今後キャリアマトリックスの効果の検証を行っていく必要があると思われる。

さらに、グループワークの効果も見受けられたが、グループ間での体験の差など詳細に分析していく必要があるだろう。

引用文献

- 石嶋宏規・橋川真彦 2003 中学生の高校進学動機が教育的進路成熟に及ぼす影響 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要, 26, 229-240.
- 伊藤嘉奈子・工藤吉猛 2010 コラージュを用いたキャリア教育に関する一考察 鎌倉女子大学紀要, 17, 19-30.
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2003 児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について.
- 坂柳恒夫・竹内登規夫 1986 進路成熟態度尺度(CMAS-4)の信頼性および妥当性の検討 愛知教育大学研究報告, 35, 169-182.
- 内閣府政策統括官 2009 高校生活及び中学校生活に関するアンケート調査—高等学校中途退学者及び中学校不登校生徒の緊急調査.
- 文部科学省 2009 学校基本調査結果概要.

要旨

本研究では、中学3年生54名を対象にキャリア教育の事前学習及び授業を実施し、職業知識の向上と、現在の学びや進路選択と将来の職業の関連付けが向上するかどうか検討することを目的とした。

具体的には、キャリアマトリックスを用いた事前学習を実施し、授業において協同コラージュをもとにしてグループで職業について話し合いをするというグループ内発表を、自己肯定感を持って行うことができることを期待した授業を実施した。授業前後には、進路成熟態度尺度を実施し、授業の効果を検討した。

その結果、授業後に自己の進路に対して計画的であることや積極的な関心を持つことに高まりが見られ、本研究の目的が達成できたと言えた。

(2010年10月4日受稿)